HONDA

コード	0268

組立説明書

商品名　FBバルコニー

■このたびは、お買い上げ下さいましてありがとうございます。
■正しく組立を行っていただくため必ず本書を読み、よく理解して下さい。

目次

■商品名 ……1
■組立前に必要な準備 ……2
■基本寸法 ……2
■組立て上の注意 ……3
■梱包明細 ……4
■各部名称 ……5
■標準タイプの組立 …… 6～11
■連棟タイプの組立 ……12～13
■雨樋の取付 ……14

組立前に必要な準備

工具

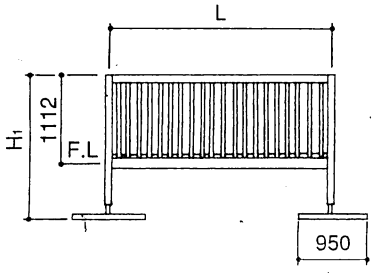
- スケール、水平器
- スコップ、つるはし
- カッターナイフ
- 充電ドライバー、㊉ドライバー
- 電気ドリル、キリ
- ボックスレンチ、スパナ
- 切断機、弓ノコ
- プラスチックハンマー、木づち
- コーキングガン、ヘラ

資材

- セメント
- 砂
- グリ石

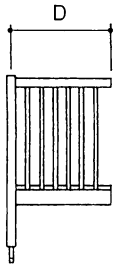
基本寸法

屋根置式



高さ寸法

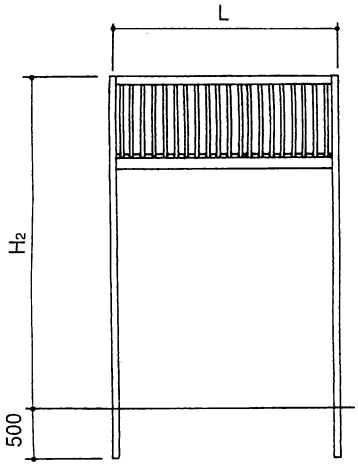
	H_1
09	MAX 1867
12	MIN 1564
15	MAX 2067
18	MIN 1764



出幅寸法

	D
09	890
12	1190
15	1490
18	1790

柱建て式



高さ寸法

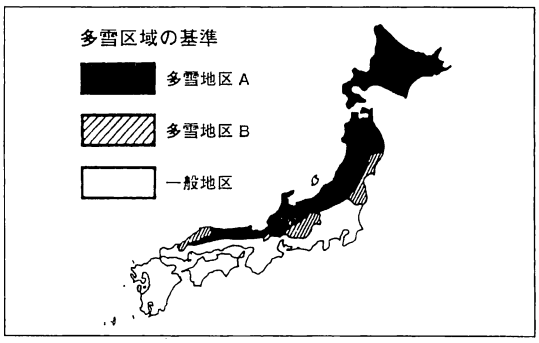
	H_2
標準	4300
ロング	5400

間口寸法

	L
1.0K	1856
1.5K	2750
2.0K	3650

組立上の注意事項

1 本製品は一般地区用です。
□の部分で使用下さい。



2 本製品の組立は組立説明書に従い、みだりに改造、変更はしないで下さい。

3 落雪の恐れのある場所や条件の悪い場所（風の通り路等）への設置はしないで下さい。
落雪の恐れのある場所へ取付ける場合は屋根の雪止工事を必ず行って下さい。

4 本製品は木造住宅の二階部以下に取付ける設計です。
３階以上に使用しないで下さい。

5 本体と躯体を連結するコーチスクリューは指定本数を使用し、柱等に確実に固定して下さい。

6 基礎は指定の大きさで必ずアンカー棒を取付けコンクリートで固定して下さい。
寒冷地では柱の凍結破損防止の為、基礎に近い場所にφ5水抜穴を開けて下さい。

7 躯体の取付面及び穴開け加工をする場合は必ずコーキングで防水処理を施して下さい。

8 コンクリートに使用する砂に海砂は使用しないで下さい。
海砂には塩分が多く含まれておりアルミを腐食させる原因となりますので使用する場合は真水でよく水洗いした後、使用下さい。

9 コンクリート（又はモルタル）に急結剤を絶対に使用しないで下さい。

10 屋根置式バルコニーの場合、つか受が軒先へかからないよう奥行寸法を設定して下さい。

11 屋根材に集中荷重がかからないよう、つか受を必要以上に短くしないで下さい。

12 既設の建物に取付けの場合、建物側の柱、間柱、外壁、たる木、野地板、屋根材が老朽化していると、バルコニーの固定が困難となります。施工主様にそれらの補修の必要性を申し出て、十分打合せを行なってから取付して下さい。

13 風当りが強いと思われる場所に、バルコニーを設置した上に、屋根を取り付けるときは、最寄の代理店、販売店もしくは当社までご相談下さい。

14 組立時に付いたモルタル、油等の汚れは、本体にキズを付けない様に拭き取って下さい。

15 ボルト、ビス類は確実に締め付け、工事終了後に確認を行って下さい。

16 組立終了後、取扱説明書に必要事項を記入し施工主様に必ずお渡し下さい。

梱包明細

■6-1　前面格子セット

品　　名	1.0K	1.5K	2.0K
前面格子	2	3	4

■6-2　側面格子セット

品　　名	09	12	15	18
側面格子	2	2	2	R/L 各2

■6-3　間口セット

品　　名	1.0K	1.5K	2.0K	2.5K
桁	1	1	1	1
前面笠木	1	1	1	1
根太掛け	1	1	1	1
すき間かくし	1	1	1	1
笠木取付金具	2	2	2	2

■6-4　妻梁奥行セット

品　　名		09	12	15	18
妻梁(R/L)		各1	各1	各1	各1
妻笠木(R/L)		各1	各1	各1	各1
すき間かくし(R/L)		各1	各1	各1	各1
根太	1.0K	4	4	4	4
	1.5K	6	6	6	6
	2.0K	8	8	8	8
笠木取付金具		2	2	2	2

■6-4W　連結根太セット

品　　名		09	12	15	18
連結根太		1	1	1	1
連結根太カバー		1	1	1	1
根太	1.0K	4	4	4	4
	1.5K	6	6	6	6
	2.0K	8	8	8	8

■6-5ヤ　　屋根上柱セット
6-5Wヤ　屋根上連棟柱セット

品　　名	単体	連棟用
柱(R／L)	各1	——
連棟柱	——	1
振れ止め	——	1

■6-5立　　立上り柱セット
6-5W立　立上り連棟柱セット

品　　名	単体	連棟用
柱	2	——
連棟柱	——	1
丸樋(φ42)	2	1
共通樋部品(φ42)	2	1
樋パッキンF	2	1

■6-6S　部品箱（屋根置式、柱建て式共通）

品　　名	1.0K	1.5K	2.0K
桁取付金具	2	2	2
妻梁取付金具	2	2	2
笠木壁付金具	2	2	2
セットビス	1	1	1
コーキング(330ml)	1	1	1
組立説明書・取扱説明書	各1	各1	各1

■6-6W　連棟部品箱（屋根置式、柱建て式共通）

品　　名	1.0K	1.5K	2.0K
妻梁取付金具	2	2	2
桁連結金具(R/L)	各1	各1	各1
セットビス	1	1	1
コーキング(330ml)	1	1	1
連結根太キャップ	2	2	2

■6-7N　　屋根上柱受けセット
6-7WN　屋根上連棟柱受けセット

品　　名	単体	連棟用
調節脚	2	1
瓦棒	2	1
脚受金具	2	1
屋根置式追加セットビス	2	1

■共通樋部品（φ42）

品　　名	員数
アタッチメント	1
ドレンエルボ　88°	1
エルボ　88°	2
サドル・サドル受け	3
φ4×19テクスビス	5
接着剤	1
水止めキャップ　φ30	1

■立上り柱用追加樋セット

品　　名	標準	ロング
丸樋(φ42)　3200	1	1
丸樋(φ42)　1600	——	1
ストレートジョイナー	1	2
サドル	3	4
φ4×19テクスビス	3	4

梱包明細

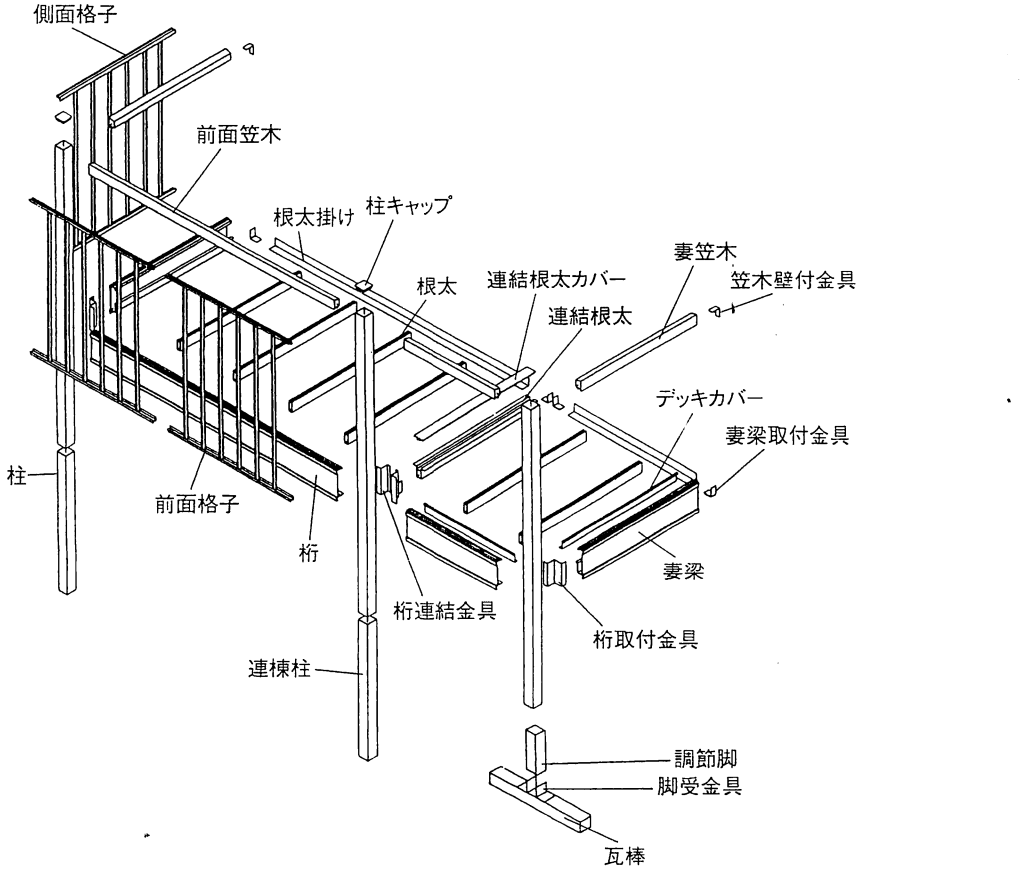
■セットビス（屋根置式、柱建て式共通）

品　　名	S			W		
	1.0K	1.5K	2.0K	1.0K	1.5K	2.0K
M8×162 小判頭ボルト(1) 平座金(1) バネ座金(1) ナット(1)	4	4	4	2	2	2
M8×80 ボルト(1) 平座金(2) バネ座金(1) 袋ナット(1)	2	2	2	—	—	—
M8×80 ボルト(1) 平座金(2) バネ座金(1) ナット(1)	—	—	—	1	1	1
M8×60 ボルト(1) 平座金(2) バネ座金(1) ナット(1)	—	—	—	2	2	2
M8×18 ボルト　Wセムス	14	14	14	6	6	6
M6×60 ボルト(1) 平座金(2) バネ座金(1) ナット(1)	—	—	—	1	1	1
M6×14 ボルト(1) 平座金(1) バネ座金(1) ナット(1)	10	14	18	8	12	16
M6×14 ボルト(1) 特殊平座金(1) バネ座金(1) ナット(1)	2	2	2	2	2	2
φ8×75 ユニクロコーチスクリュー(1) 平座金(1)	4	5	6	4	5	6
φ5.1×63 丸木ネジ	4	4	4	—	—	—
φ5×16 トラスタッピング1種	24	28	32	8	12	16
φ4×75 ナベタッピング1種	—	—	—	3	3	3
φ4×25 ナベタッピング2種　ガイド付	38	50	62	38	50	62
φ4×13 テクスビス	9	10	11	3	4	5
φ8×150 アンカー棒	2	2	2	1	1	1
柱キャップ	2	2	2	1	1	1
妻梁パッキン	2	2	2	—	—	—

■屋根置式　追加セットビス

品　　名	S			W		
	1.0K	1.5K	2.0K	1.0K	1.5K	2.0K
M8×80 ボルト(1) 平座金(2) バネ座金(1) ナット(1)	4	4	4	2	2	2
M8×20 ボルト(1) 平座金(1) バネ座金(1) ナット(1)	4	4	4	2	2	2
φ4×13 テクスビス	2	2	2	1	1	1

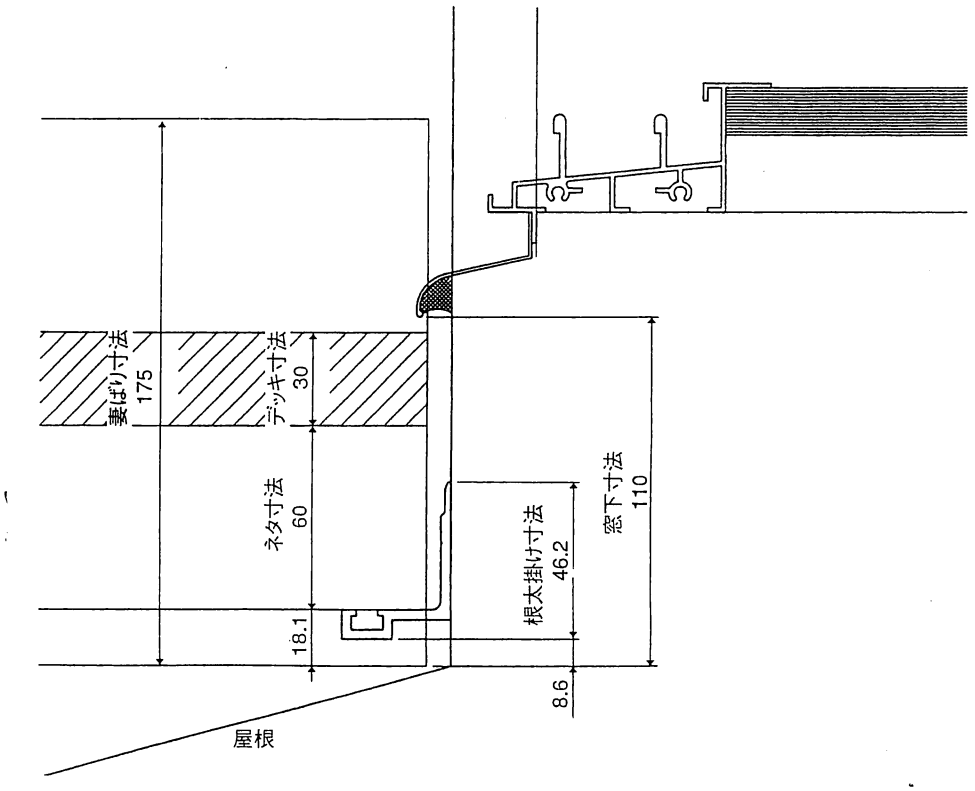
各部名称



取付け部の確認

①取付け前に躯体の柱、間柱胴差しの下地の位置を確認して下さい。
②根太掛けの取付けスペース（110mm）の有無、妻ばり（サイドフレーム）の取付けスペースを確認して下さい。
- 確認が困難な場合は、新たに下地材を取付けて下さい。

③躯体に墨出しを行い、取付位置を決定して下さい。

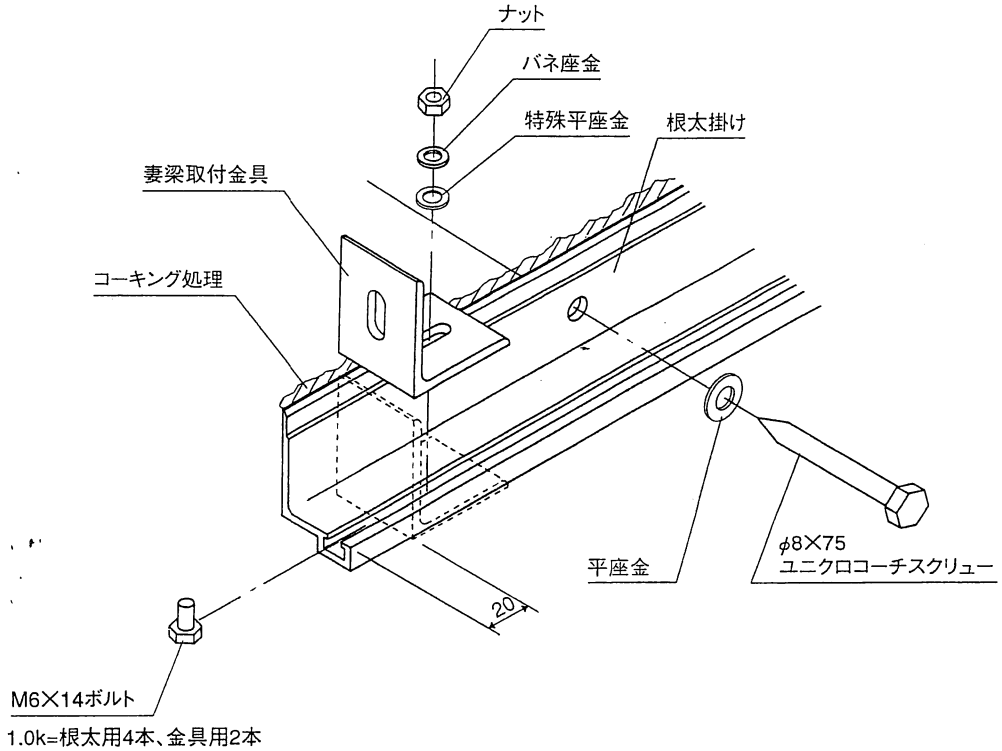


根太掛けの取付

①水平を出して下穴（φ5）をあけ、コーキングを充てんし、コーチスクリューで固定します。
（注意）
- 根太掛けにコーチスクリュー取付穴は端部しか、あけていませんので、中間部は穴加工後、取付て下さい。
- コーチスクリューは柱、間柱に取付けて下さい。
  指定本数を必ず使用し確実に締め付けて下さい。

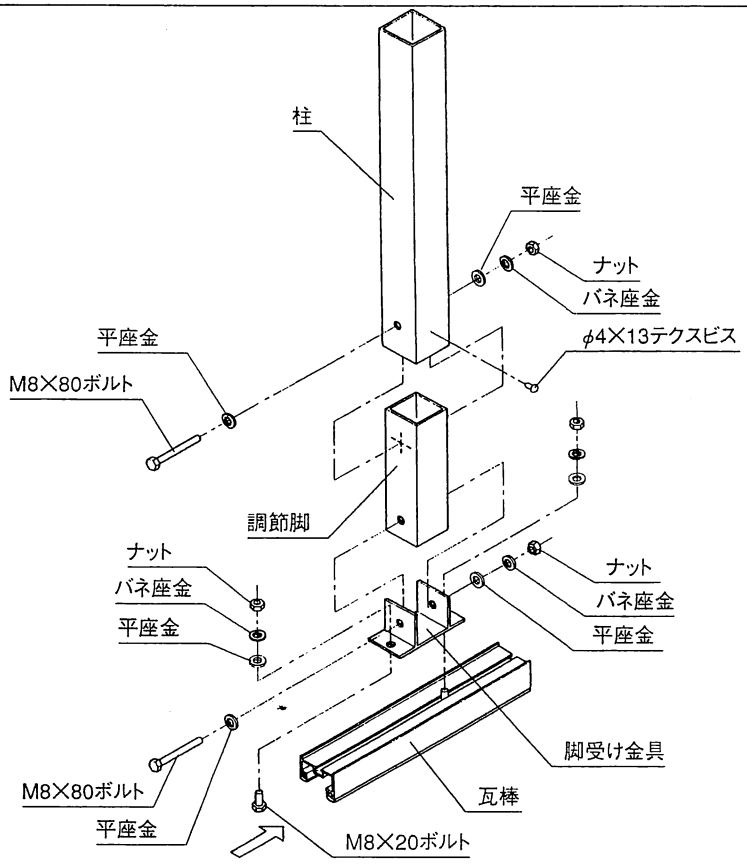
②躯体の接続部分に、コーキング処理を施して下さい。
（注意）
- コーキングが不十分ですと、雨漏れの原因となります。

③両端よりボルトを指定本数分スライドし、妻梁取付金具を根太掛けの両端部に固定して下さい。



1.0k=根太用4本、金具用2本
1.5k=根太用6本、金具用2本　スライドして
2.0k=根太用8本、金具用2本　下さい。

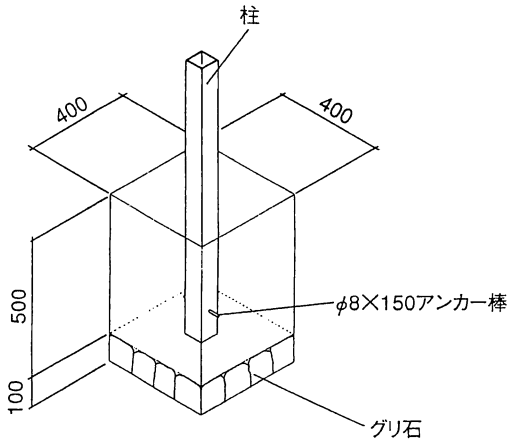
屋根置式受柱の組立



①柱に調節脚、調節脚受け金具、瓦棒を取り付けて下さい。

- 仮止めビス(4×13テクスビス)にて仮止めし、本体組立完了後M8×80ボルトで確実に固定して下さい。
  その場合柱と固定する調節脚のφ9穴は、現場穴アケ加工となります。

柱建て式基礎



①根太掛けより基礎位置を墨出しを行い指定寸法の大きさで穴を堀って下さい。

(注意)

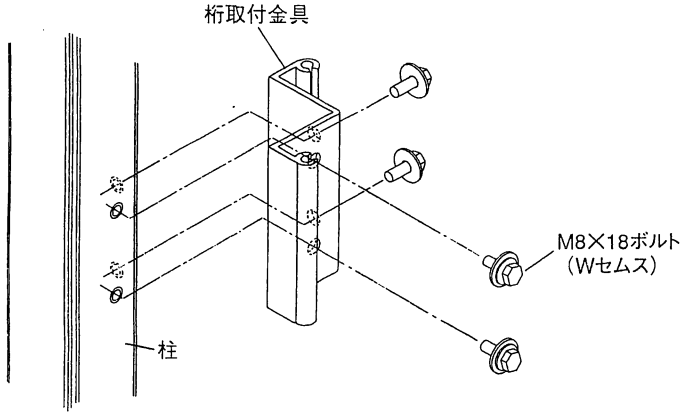
- 地盤が軟弱な場所では、指定寸法以上の基礎として下さい。

②アンカー棒を必ず取付けて下さい。

(注意)

- コンクリート工事は骨組完了後に行なって下さい。
- 寒冷地では基礎に近い位置にφ5水抜き穴を加工して下さい。

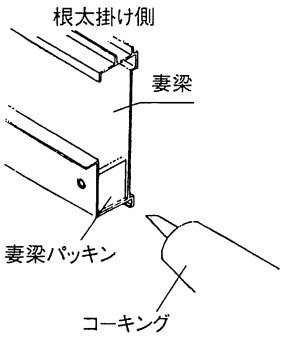
コーナー金具の取付

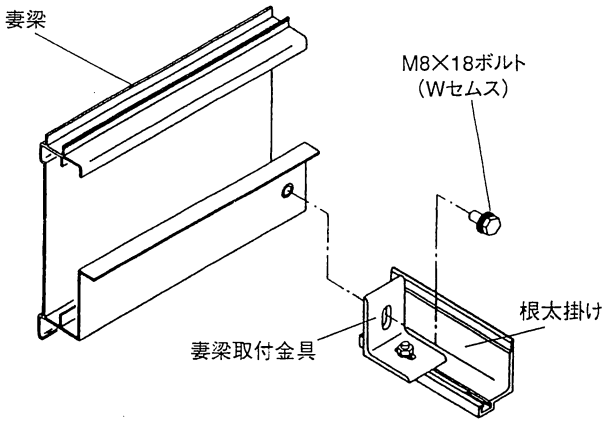


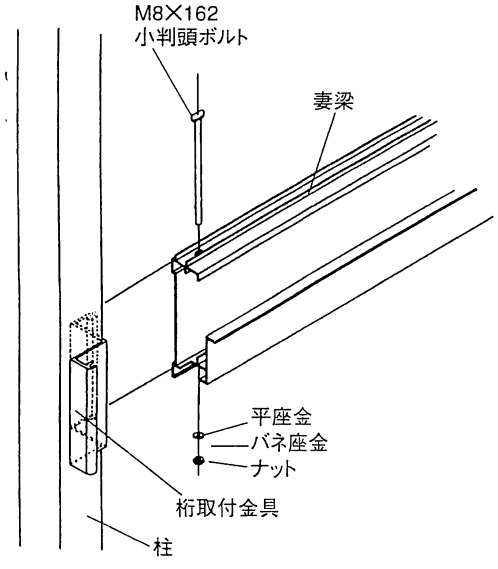
①柱に指定ボルトにて桁取付金具を取り付けて下さい。

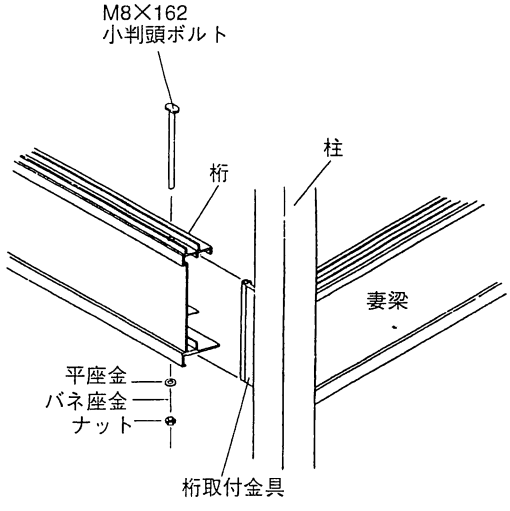
妻梁の取付、桁の取付

①妻梁の根太掛け側に妻梁パッキンを取付け、コーキング処理をして下さい。
②妻梁を根太掛けに固定されている、妻梁取付金具に固定して下さい。
③妻梁を、柱に固定されている桁取付金具に差し込み、小判頭ボルトにて確実に固定して下さい。
④桁を柱に固定されている桁取付金具に差し込み、小判頭ボルトにて確実に固定して下さい。



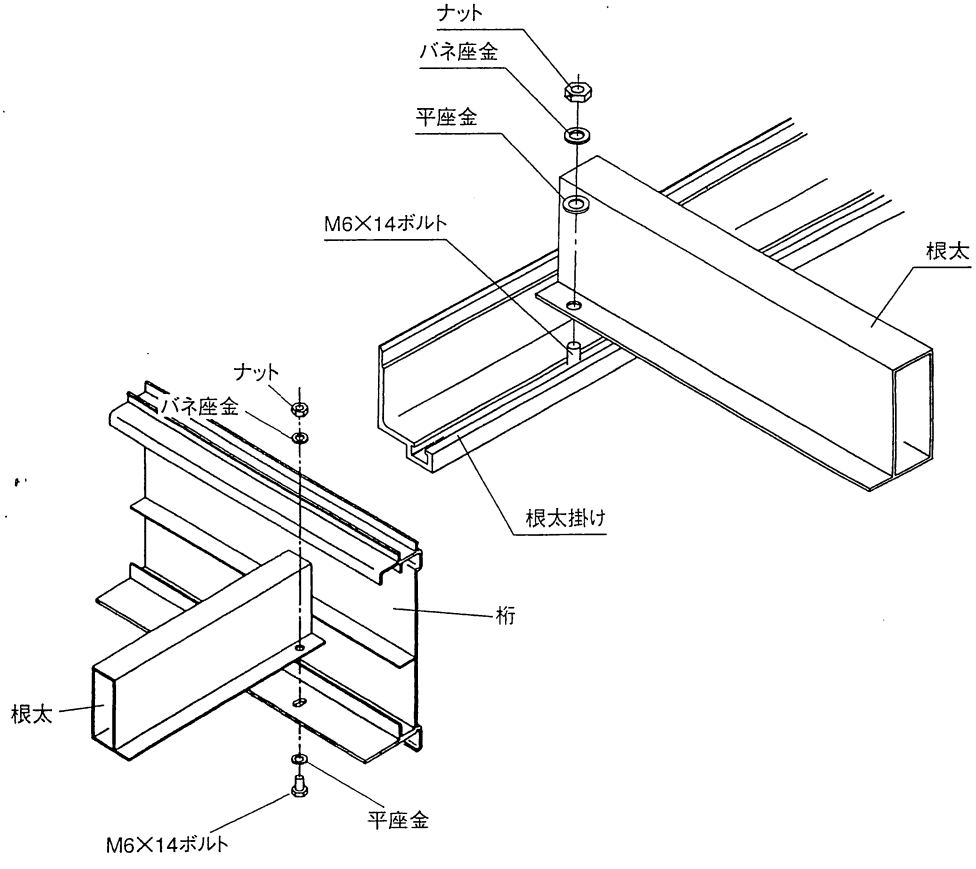




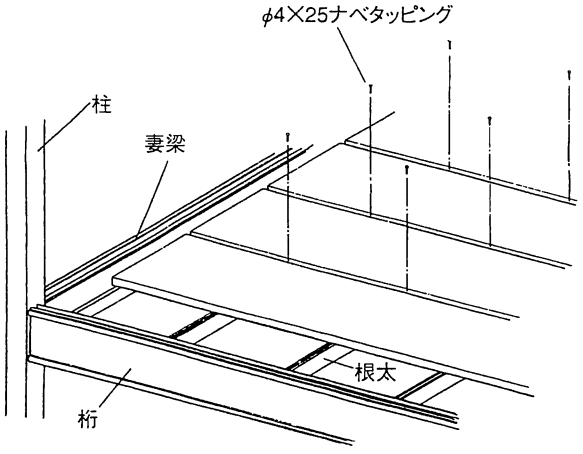


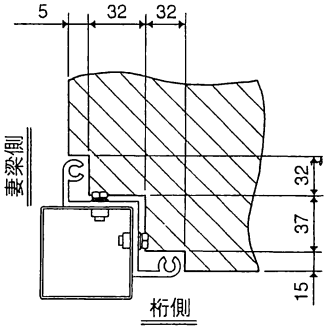
根太の取付

①根太掛けのマークの位置にボルトにて根太を固定して下さい。
②桁に根太をボルトにて固定して下さい。

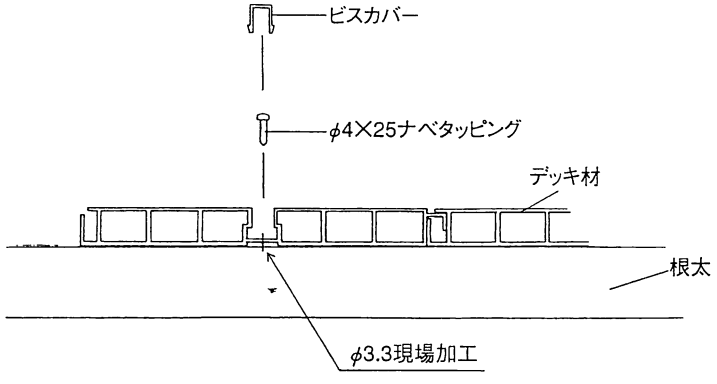


デッキ材の取付





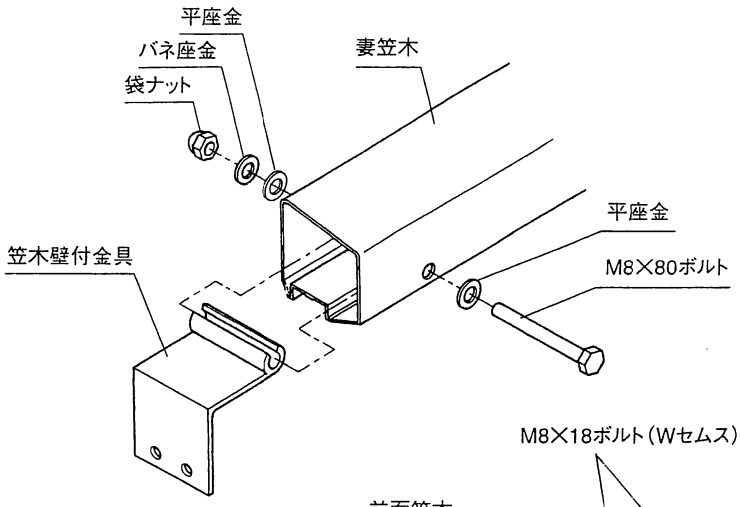
デッキ材の切り欠き

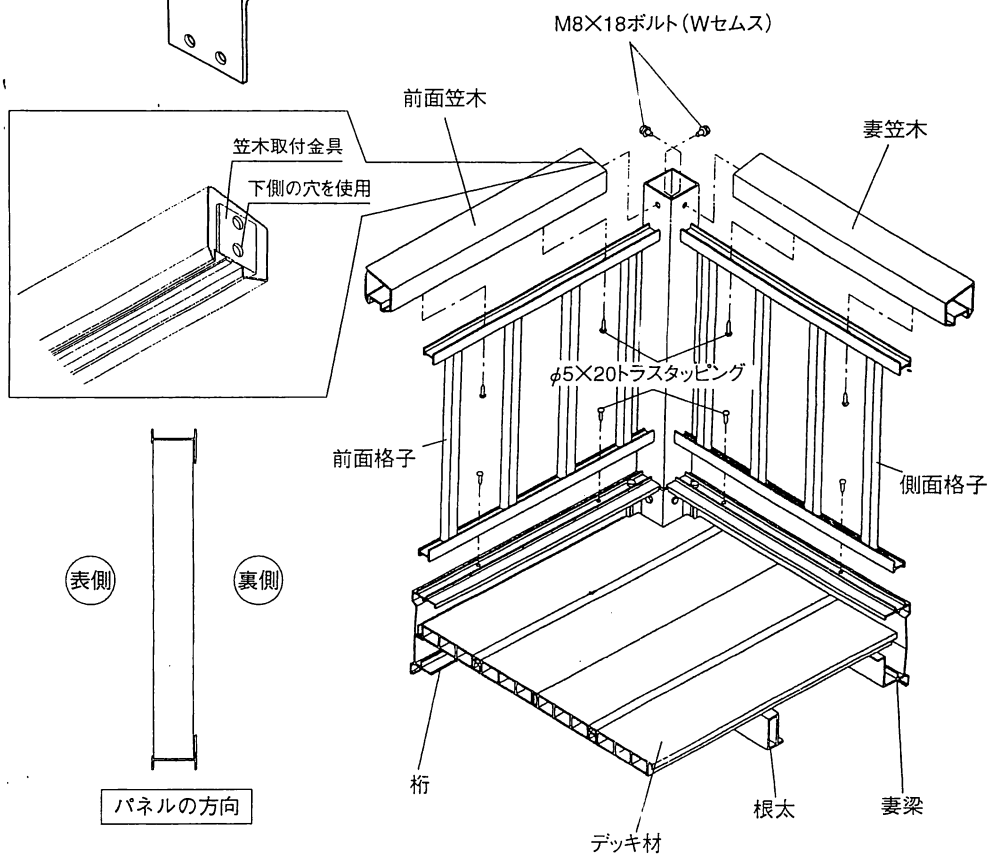


①桁側へ取り付けるデッキ材の両端を柱の重ね代分、切り欠いて下さい。
②デッキ材をタッピングビスにて根太及び妻梁に固定して下さい。

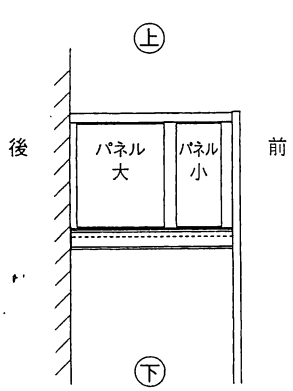
笠木、格子の取付

①妻笠木に笠木壁付金具をボルトにて取付けて下さい。
②前面格子、側面格子を桁、妻梁の溝と笠木の溝にはめ込みビスにて固定します。
③笠木を柱とボルトにて固定します。
④妻笠木に取り付いている笠木壁付金具を壁に丸木ネジにて固定します。
※必ず丸木ネジの下穴にコーキングをつめてから取付けて下さい。

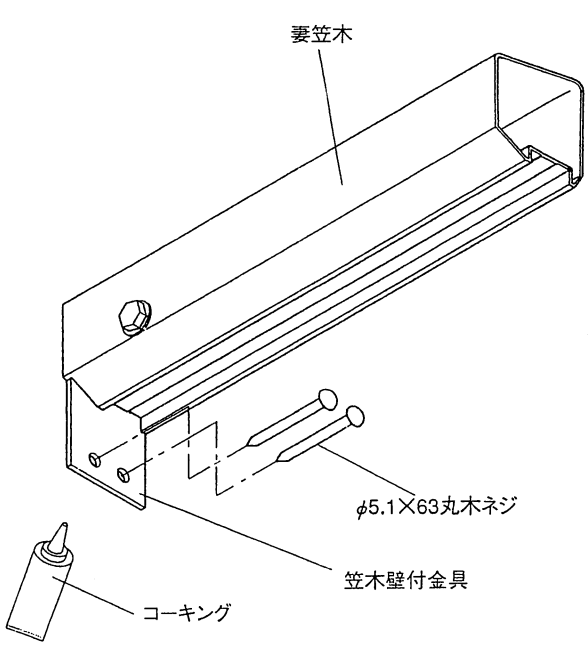




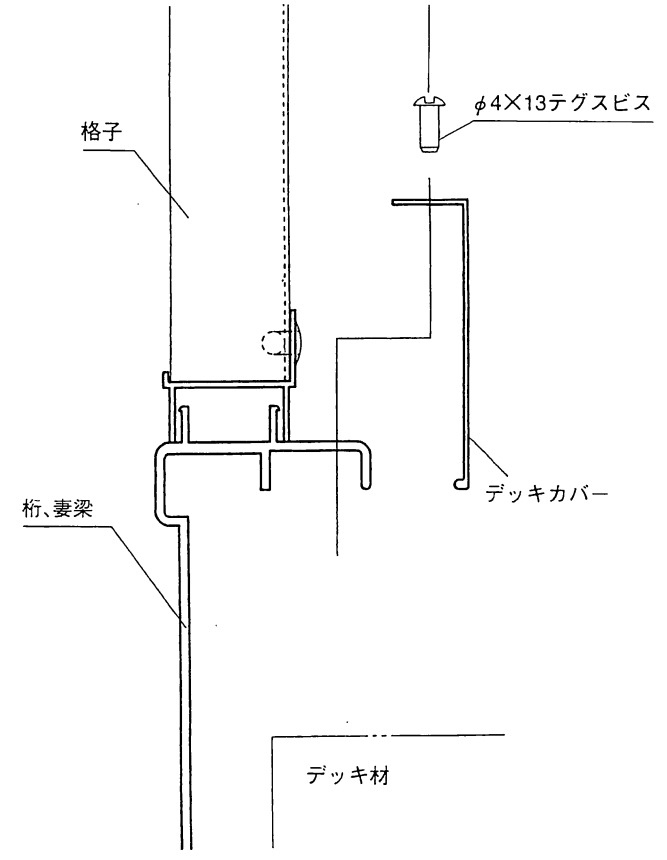
パネルの方向

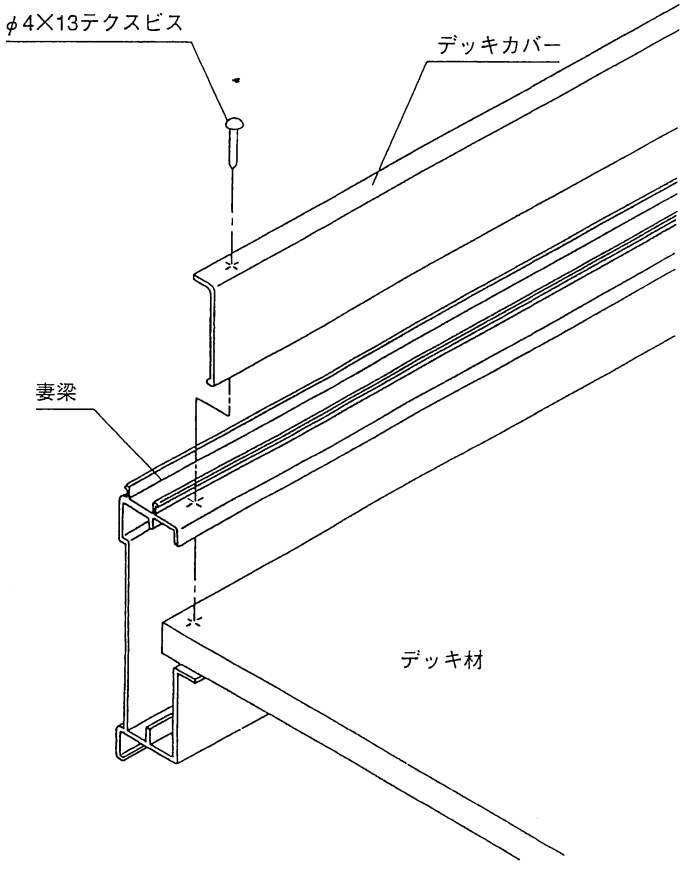


18用パネル位置



デッキカバーの取付



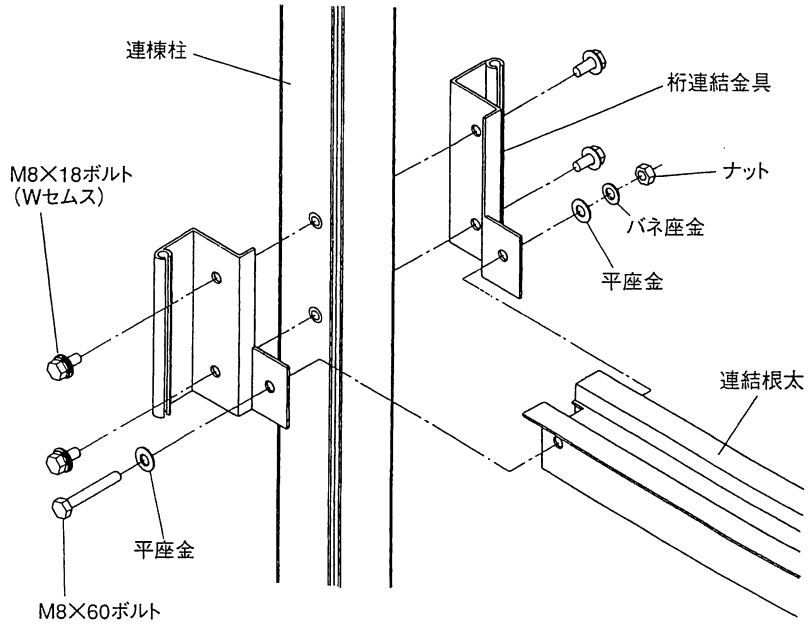


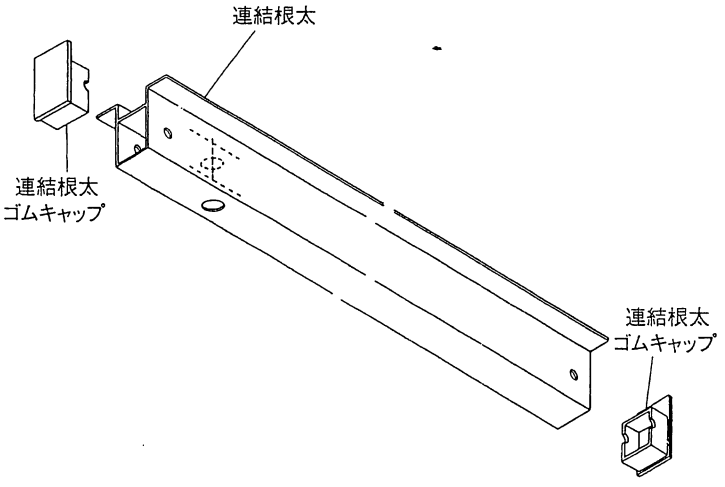
①桁と妻梁にデッキカバーをテクスビスにて固定して下さい。

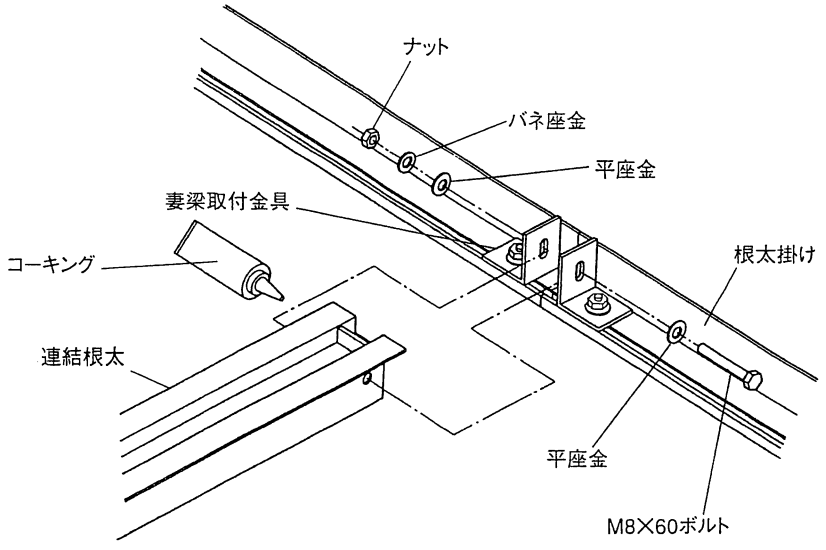
注)妻梁とデッキ材とのすき間は、雨水の流れるスペースです。コーキング等でふさがないで下さい。

連棟柱への取付

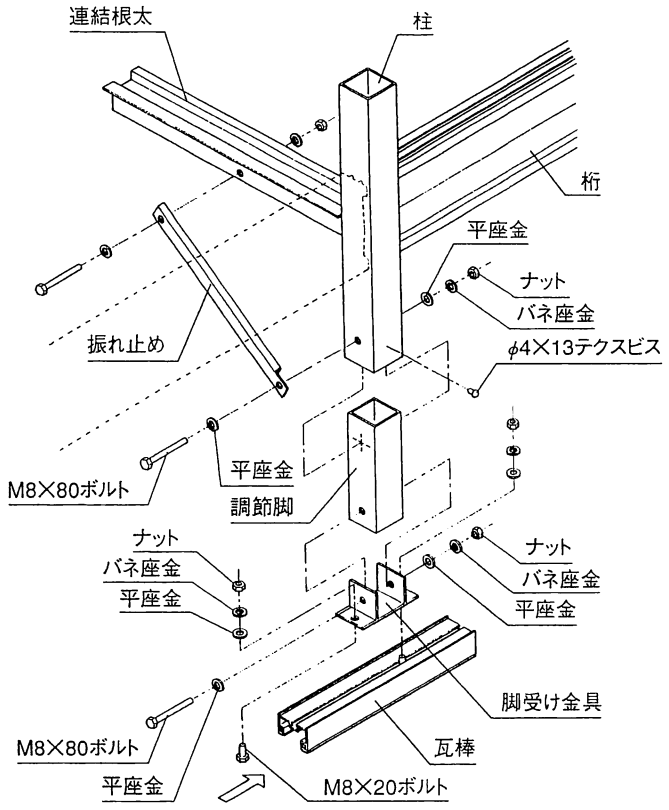
①連棟柱へ桁連結金具を左右まちがわない様にボルトにて固定して下さい。
②連結根太へ連結根太ゴムキャップを両端に取付けて下さい。
③桁連結金具との間に連結根太を差し込みボルトにて固定して下さい。
④根太掛けの連結部分に妻梁取付金具を向い合いに仮止めし、その間に連結根太を差し込み、ボルトにて固定します。
⑤全てのボルトを確実に締めて下さい。
⑥コーキングにて防水処理を行なって下さい。







振れ止め、連棟部調節脚の取付（屋根置式の連棟の場合のみ）

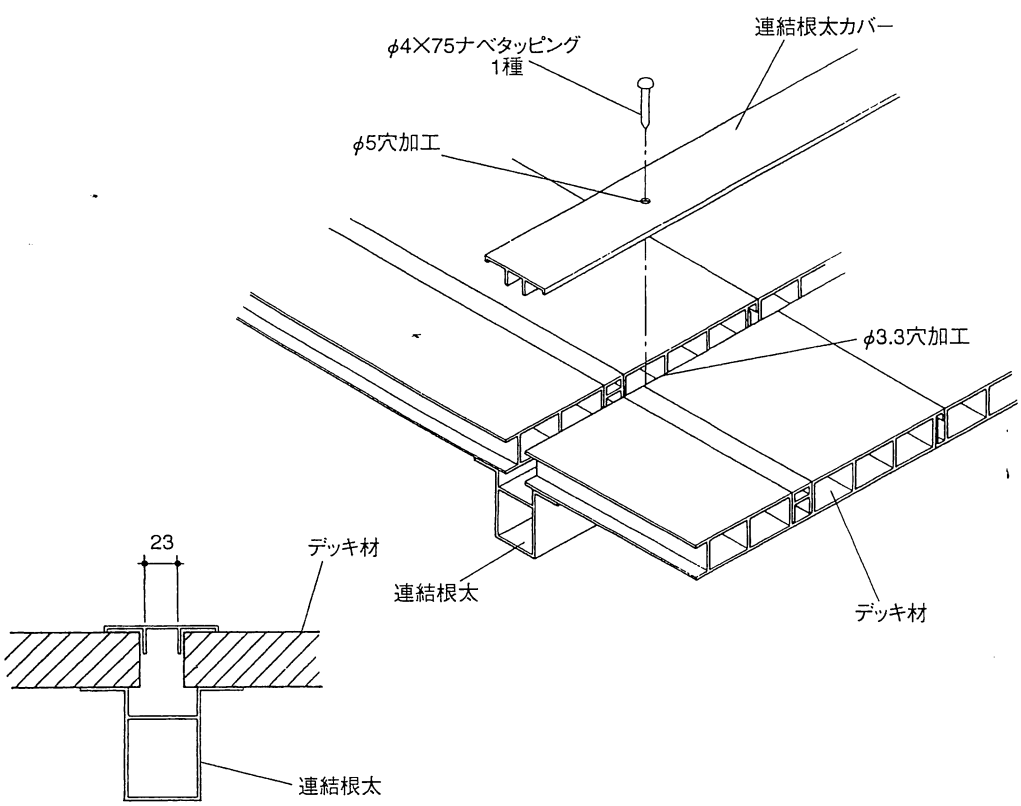


①柱に調節脚、調節脚受け金具、瓦棒、振れ止めを取付けて下さい。

（注意）

- 柱に調節脚をφ4×13テクスビスにて仮止めし、本体組立後、ボルトにて固定して下さい。

連結根太カバーの取付



①連結根太カバーにφ5穴加工、連結根太にφ3.3穴加工を施して下さい。

②連結根太部分のデッキ材を指定寸法に切り縮めて下さい。

③連結根太カバーをデッキ材の上にのせ、ビス止めして下さい。

確認

全てのボルト、ビス、コーチスクリュー等を確実に締めて有るか確認して下さい。

樋セットの取付（柱建て式の場合）

①図のように樋セットを取付けて下さい。

（注意）

- サドルは3ケ所使用して下さい。
- 竪樋はあらかじめ適当な長さに切っておいて下さい。
- 屋根置式には使用しません。